

伊予市 じんけん教育

一人ひとりの人権が尊重される
明るい伊予市をめざして





■編集・発行
伊予市教育委員会
愛媛県人権教育協議会伊予市支部
〒799-3113 伊予市米湊 820 番地
TEL 089-982-5155 FAX 089-982-5156

心豊かな子どもの成長を願って ぐんちゅう保育所

ぐんちゅう保育所は、現在

0歳児から就学前の5歳児まで122名の子どもたちと、満10カ月からの未就園児を預かる一時保育（なのはな組）の子どもたちが、毎日元気に通ってきています。当園の子どもたちは、素直で明るく元気いっぱいです。中には、7時から19時までの長時間を保育所で過ごす子もいますが、一生懸命仕事と子育てを頑張っている保護者に寄り添いながら連携し、共に子どもたちの成長を見守っています。

6月のある日、4歳児のお母さんが、家で飼っているカメが産んだ卵を持ってきてくれました。子どもたちは、カメの卵を育てるのは初めての経験です。3カ月くらい毎朝そーっとケースの中を覗いていた子どもたちは、少しずつ卵が力タカタ動くのに気付きました。

ました。

「もうすぐ産まれるかも！」数日後、3匹のかわいい赤ちゃんカメが産まれたときは大興奮でした。赤ちゃんカメがひっくり返ると起きられないかもしれないと心配して、いつも



【ちっちゃくて、かわいいね】

誰かがカメのそばにいました。「いくら動きまわっても自分がいた卵の殻に入りよるよ。カメさんは自分の家がわかるんやねー。」

新しい発見や感動を先生や友達に話したり、家庭でも伝えたりしていたようです。毎日世話を続け、今も元気に育っています。



【はじめての発表会】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は延期や中止になったものもありますが、地域との交流も積極的に実施しています。回数は減りましたが、伊予農業高等学校のお兄さん、お姉さん



【わあーおおきいな！】

ちとの食育交流は、年長児が楽しみにしている交流のひとつです。園庭にある畑に、ブロッコリー・白菜・キャベツ・大根・ほうれん草・小松菜など、いろいろな野菜の種をまいて収穫まで一緒に世話をします。

ある日、キャベツに虫がいるのを見付けた年長児が、

「虫が食べよる〜！」

と大騒ぎしましたが、

「いっぱい世話してあげておいしいから食べよるんよ。」

と高校生のお姉さんに言われると、ますます張り切って畑の様子を見に行き、世話をす

るようになりました。成長していく野菜を見ながら、

「今日は食べられそうかな？」

「明日はどうかかな？」

と、ワクワクしているようです。また、毎日収穫しても、次々といけるピーマンに

「ピーマンって、いつまでで

きるん？」

と、友だちと首をかしげながら不思議そうに話している子どももいます。

野菜を育てたり、生き物に触れたりする中で、子どもたちは様々な発見や驚き、感動を体験していきます。また、命の大切さに気付くことで、自分や人を大切にすることが

人権・同和教育の取組

全校縦割り班活動

本校では、学校生活の様々な場面に、異学年で編成した班活動を取り入れています。

毎日の清掃をはじめとして、業間に行う縦割り班遊び、年間を通して班対抗で競い合う「南山魂杯」、ウォークラリー遠足などを実施し、交流を深めています。これらの活動を通して、上の学年の児童にはリーダー性や下の学年をいたわる気持ちが、下の学年の児童には、

上の学年への尊敬や信頼感が育つなど、自分や友達のよさ



【ドッジボール大会】

南山崎小学校

人権集会

児童が人権に関わる身近な問題を自分のこととして考える場として、人権集会を行っています。

環境委員会による校務員さんへのインタビューでは、自分たちの生活を支えてくださっている方がいることに気付き、感謝するとともに、身の回りの自然や生物の命を大



できます。これからも、人や自然との関わりや体験を通して、子どもたちが豊かな心をもち、たくましく元気に育ってくれるよう願っています。

切にしようという気持ちを育みました。また、図書委員会が行った、自閉症をテーマにした絵本の読み聞かせでは、障がいも個性の一つであることを知り、違っていることもよさであると感じることができました。

環境づくり

自分も友達もかけがえのない存在であることを実感できるよう各学級に「きりりん☆コーナー」を設け、友達のいいところをカードに書き、掲示しています。取組を続けることで、多面的・多角的に友達の姿を見ることができるようになり、自己肯定感も高まっています。

また、階段の踊り場に「人権コーナー」を作ったり、人権に関する図書を選んで学級に置いたり、人権について考える場づくりを行っています。

伊予市人権・同和教育研究会

10月15日（木）には、本校を会



【授業の様子】

を巡る差別や偏見を取り上げ、その解消に向けて自らがどうすべきか真剣に考えました。

後半は、「菊池道場」の主宰者である菊池省三先生に、「あたたかいコミュニケーションあふれる毎日に」と題して、講演していただきました。「ほめられること、認められることは、自分を大切に思うことにつながる。そういう自己肯定感が、困難にぶつかったときに乗り越える力になる。」という言葉に、参加者は、人と人とのコミュニケーションの大切さを実感し、人権について考える貴重な時間になりました。

三世交代交流会

「三世代ふれあい活動を通して、地域の人々と主体的に関わろうとする態度を育てる」ことをねらいとして、毎年秋に「三世交代交流会」を実施し

ています。

今年度は11月に、地域の方に教わりながら、「紙飛行機・軍手人形・リース・絵手紙・ちりめん細工・いす作り」を行いました。児童は、コツやヒントを教えてもらいながら親子で生き生きと活動し、その作品の出来栄に、満足感



【絵手紙作り】

でいっぱいでした。そして、手際よくもの作りをする地域の先輩方を尊敬し、自分たちを温かく見守ってくれていることへの感謝の気持ちをもつことができました。

第22期オピニオンリーダー養成講座

～人権啓発活動推進者づくり～

人権啓発活動のリーダー育成を目指す本講座は、コロナウィルス感染症拡大防止のため、会場をY.O.夢みらい館文化ホールに移して、89名の受講生を迎えて実施しました。

◆第1講 11月5日（木）

テーマ／今、子どもたちが

学んでいること

講師／森岡郁雄

（伊予小学校教諭）



【第1講】

子どもたちは、国連が提唱しているSDGs（持続可能な開発目標）を達成するために多くのことを学んでいる。「知る」には2面性があり、興味本位でなく、自分との関係性を見出し、共に問題の解決に取り組むとすることが大事。人権問題を解決するための学習では、次の3点に留意して子どもたちに伝えている。

- ① 科学的な認識→実態への正しい理解
- ② 問題解決のためのスキル→問題に気づき・考え・実行する力
- ③ 未来への明るい展望→先人たちの行動に学び解決への明るい展望をもつ。

子どもたちにとっての先人とは、差別をなくそうと行動した歴史上の人物だけでなく、差別をなくそうと行動する身近な大人たちのこと。人は互

いに尊敬されるべき存在。家庭・地域でも、子どもをサポートできる人権意識の向上をお願いしたい。

【受講者の感想】

正しく「知る」ことはとても大切なことだと思いました。差別のことを知らなければ差別することもないのでないかと考えたこともありましたが、「それは違う」と改めて思いました。何も知らないままに差別に直面した時に、正しいことを知り、理解していなければ、人を傷付けてしまうことになってしまうかもしれない。まずは、自分からいろいろなことについて正しく知りたいと思いました。

◆第2講 11月12日（木）

テーマ／部落差別解消の歴史

講師／宮岡真司

（岡田小学校校長）

差別がなくならない原因の

一つに無関心がある。同じものを見ても、見え方が違う、感じ方も違う、考え方も違う。だから、関心をもつことで、関わることで、相手のことを理解する必要がある。

新型コロナウイルスによる偏見や差別を防ぐには、確かな情報を広め、差別的な言動に同調しないことが大事。

平成28年に「部落差別解消推進法」が施行。部落差別は解消しつつあるが現存する。部落差別は江戸時代に作られ、強化された身分制度が明治時代に無くなったにもかかわらず、誤った見方や偏見が続いている。差別は「差別する側」の問題。迷信や偏見に惑わされず、いわれない差別であるという正しい知識・理解をもち、解消に向けて行動することが必要。

【受講者の感想】

自分を見つめ直してみると、差別をしている意識が無くても差別に近い言動をしていたり、そのような感情になっていたたりしていた時があったの

かなと思います。自分はいないつもりでも、相手がどう思うか、どう感じるかが大切です。今までよりも、もっと自身を冷静に見ること、相手の気持ちを考えて行動することを意識していかなければならないと感じました。

◆第3講 11月26日（木）

テーマ／特別な支援を必要とする子どもたちのために

講師／山内望

（愛媛県総合教育センター
特別支援教育室長）

発達障がい、本人の努力不足、教師の指導力不足、家庭でのしつけや愛情不足等の育て方が原因ではない。自分の力だけではどうにもならないことが原因で、その場にふさわしくない言動を繰り返している可能性がある。保護者や教師が本人の「困っていること」に気付くことが支援の出発点。子どもの立場で理由や背景を探り、子どもの特性を理解した支援を行う。

困った行動をしている子ども

もを叱るのではなく、その場に合った行動をしている子どもをほめ、誰かのために力を発揮する経験を積ませることが大事。叱る場合は、肯定的な表現・具体的な表現を心掛け、子どものよい姿を引き出すようにしよう。

【受講者の感想】

できることが増えてくると、できることが当たり前になってきて、できないことに目が向きがちですが、いつまでもできることをほめたいと思いました。

ビデオの中で、「できないことを努力しろ」と言われてもできるようなにならないが、「自分に合ったやり方を認めてほしい」という言葉を聞いて、その通りだと思いました。社会や環境が変われば、障がい障がいはいでなくなる。本当の障がい、実は私たちの心の中にあるのかもしれない。

◆第4講 12月3日（木）

テーマ／子どもの人権と家庭支援、関係機関との連携

講師／土居和博

（子ども総合センター長）

伊予市子ども総合センターは、支援を必要とする子どもや家庭に対応するため、平成28年に県下で2番目に設置された。子どもを守る最後の砦として、家庭と顔の見える信頼関係を築き、支援を必要としている子どもや保護者に笑顔が広がるように取り組んでいる。

どの家庭も、子どもにとって「安全で安らぎの基地」になるよう、関係機関と連携しながら支援していきたい。18歳までの子どもを対象としているので、心配なことがあれば相談してほしい。

【受講者の感想】

スマホが普及し、人との関わりが少なくなっていますが、挨拶や小さなことでも関わり、一人ひとりが孤独にならない明るい社会のために、助け合っていきたい。また、子育てで不安に思う時がありますが、何か困ったことがあるときは

「はばたき教室」があると思うと気持ち楽になりました。家庭でも、子どもの前では悪口やマイナスのことを言わないように改めて気をつけていきたいです。愛情をもって育てていきます。

◆第5講 12月10日（木）

テーマ／男女が共に笑顔で輝いていますか？

講師／亀岡マリ子

（元愛媛県男女共同参画センター館長）

従来の固定的性別役割分担意識は、男性に必要な以上の負担を強いるとともに、女性の能力が生かされなかった。男女共同参画社会は、男女共に多様な



【第5講】

生き方を可能にし、急激な変化に対応できる活力のある社会を実現するために必要。

ハラスメントは受け手がどう感じ、考えるかで決まる。「そんなつもりじゃ…」は、通用しない。誰もが加害者・被害者になる可能性がある。他者を尊重し、思いやる心を大切にするこゝで、家庭で、地域で、職場で男女が共に自分らしく生きやすい社会に、そして、益々みんなが笑顔で生き生きと輝ける伊予市に。

【受講者の感想】

男らしく、女らしくをつい言ってしまうがちなので、多様性を認め、それを職場でも共通理解として個人を尊重できるようにしていきたいと思います。今は、様々なハラスメントがありますが、常に受け取る側の気持ちを考えて行動できるようにしていきたいと思っています。みんなで話し合い、笑顔あふれるまちづくりに努めていきたいと感じました。

人権・同和教育地区別学習会の取組

郡中地区公民館

平成17年に制定した「伊予市人権を尊重する社会づくり条例」が、より多様化する人権問題に対応するため、令和2年3月に改正されました。郡中地区公民館においても、部落差別をはじめとする様々

な差別の解消を目指して、毎年、「地区別人権・同和教育懇談会」を各地区集会所等で実施してきました。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から従来の懇談会は中止し、感染防

止対策を行ったうえで「YO夢みらい館文化ホールで「人権・同和教育地区別学習会」を開催し、ビデオの視聴、講話、港南中学校人権委員会メッセージの紹介等を行いました。

【参加者の様子】

ビデオは、「外国人の人権」多文化共生社会をめざして」をテーマとした「サラーマツト」あなたの言葉で」を視聴しま

壁ではなく、自分自身を成長させ、地域を豊かにする源であることに気付くきっかけになりました。

また、講話では、新型コロナウイルス感染症拡大による人権侵害についても、新たな人権課題として話がありました。

港南中学校人権委員会メッセージでは、部落問題につい



【社会教育指導員の講話】

て生徒たちが積極的に学習し、その成果を発表する様子を通して、「絶対に差別を許さない」という強いメッセージが発信されました。

参加された方の主なご意見を紹介します。

●違いを認めることは難しいが、それが大事だと思った。

●分かり合うためには、自分から理解しようとする気持ち、行動が大切だ。

●「言葉は通じなくても、心は通じる」という言葉が心に残った。



【港南中学校人権委員会メッセージ】

●「分かる・考えよう・行動しよう」とする気持ちをもち続けたい。

●外国人だからといって決めつけしないで、相手のことをよく知ることが大事だと思った。

●このような学習の機会を通して、一人でも多くの人が見つめ直してくれると、きっと変わっていくのではないかと思う。

●自分自身の心を振り返り、生き方を見つめ直すよい機会になった。

このほか、たくさんのご意見をいただきましたが、今回の学習会の目的は、皆様にご理解いただけたものと思っています。

来年度は、昨年度までのように、各地区で行う「地区別懇談会」が実施できることを期待するとともに、これから一人でも多くの方に参加いただき、人権を尊重する社会づくりを推進していきたいと思えます。

愛媛県人権・同和教育研究大会

令和2年11月10日（火）に、「差別の現実から深く学び、『部落差別解消推進法』の具現化を目指して、地域ぐるみで人権・同和教育を推進しよう」を大会テーマに、愛媛県人権・同和教育研究大会が開催され、伊予市から46名が参加しました。



【全体会】

全体会では、部落差別解消をめざす動画メッセージ応募作品優秀賞4点の上映と表彰

が行われました。港南中学校の人権委員会や教師の部落差別解消に向けた取組と熱い思いをまとめた「私たちが差別をなくします」が入選しました。



【港南中学校の表彰】

分科会では、ぐんちゅう保育所の客野恵先生が園児の心の成長を願った取組を、扶桑会館の梅崎五十鈴館長が15年継続している人権教育講座の取組について報告しました。

それぞれの立場からの部落差別解消に向けた報告に、参加者は改めて差別解消への思

いを強めました。

【参加者の感想】

●正直なところ、私は、今まで部落差別（同和問題）を身近に感じたことがありませんでした。小学生のころに人権についての授業の中で部落差別の存在を知り、小学校・中学校・高校で人権や同和問題について学ぶ中で、差別をしてはいけないという思いはありましたが、身近に感じるものがなかったということもあり、同和問題について今まで深く考えたことはありませんでした。さらに、自分は差別について十分理解しており、全く差別をしていない人間だと思い込んでいました。しかし、今回、研究大会に参加して、今まで自分は、同和問題を自分のこととして受け止めずに、自分とは遠い存在として見ることで、面倒事に巻き込まれないように避けていたのだと気付かされました。



【動画メッセージより】

「無関心」でいることは差別をないものとして見ているということであり、それは知らず知らずのうちに差別の助長につながります。私も含め、特に若い世代には、差別を身近に感じたことがないという人が多くいるのではないかと思います。そういった人たちが差別を自分のこととして考え、何か一つでもいいから行動を起こすことで少しずつ皆の意識が変わるのだと思います。私もこれからは、同和問題を正

しく理解し、自分のこととして受け止め、無関心にならずに、身近に差別はあるのだということとを周りの人に伝えていける、「差別をなくそう」と言える人間になりたいと思います。

した。中学3年生が、自分が義務教育を卒業しても人権学習には終わりはなく、これからも学習を続けますというものでした。その言葉を聞きハッとしました。与えられる学習ではなく自ら学ぼうとする気持ち、学ぶことができる場、共に学ぶ仲間。そして地域や身近な大人などの人的環境。学習を続ける場の重要性を感じました。

中予地区人権・同和教育研究協議会

令和2年11月19日（木）に、松山市で予定されていた中予地区人権・同和教育研究協議会は、愛媛県内で新型コロナウイルスの感染者が確認されたため、中止されました。

今年度は、就学前部会でのりのきくじら保育園の泉仁美先生が、子どもたちが時間をかけて話し合うことを通して、自分の思いだけでなく、

相手の思いにも寄り添い、自分だけでなく、友達も大切に考える仲間づくりの取組を。社会教育部会では、渡辺聖社会教育指導員が公民館・地域・学校・家庭と連携した地区別人権・同和教育懇談会の取組を報告する予定でした。

すばらしい取組ですので、関係機関には報告内容をお知らせする予定です。